

REGAC

リーガック

公益社団法人 広島県理学療法士会 広報誌

Rehabilitation, Goal for Advanced Capability

Contents

- 当会の目的・歴史
- インタビュー
～ 2012は障害者スポーツが熱くなる!?～
- 各地での取り組み
- 理学療法士の仕事
- ホームページ紹介

2012.2
News Letter 創刊号



目的・歴史

当会の



(写真2) 県民の皆さまのための健康相談

「あいらんど」

— 広報誌の創刊にあたって —



公益社団法人広島県理学療法士会

会長 沖田 一彦

皆さま、こんにちは！ 私たちは広島県理学療法士会と申します。

「理学療法士」といっても、ピンとこない方が多いかもしれません。それではありません。理学療法士は1965（昭和40）年に国家資格として定められた、比較的新しい医療専門職だからです。「理学」という言葉は、英語の「physical」の訳です。それには「自然」とか「物理的な」とか「身体」という意味があります。よって理学療法とは、薬や手術を用いず、運動療法、温熱療法、電気療法などによって、身体の基本的な運動機能の回復を図る治療法の総称ということになります。

それを行う理学療法士は、リハビリテーションの現場で作業療法士や言語聴覚士などとともに働いています。これらの職種は、一般の方には「リハビリの先生」という言葉で一括りにされることも多いのですが、これを機会にぜひ「理学療法（士）」という言葉とその仕事について知っていただければと思います。

日本の理学療法士の多くは社団法人日本理学療法士協会に所属しています。その数は2010（平成22）年度で66,000人を超えています。協会は全国の都道府県に独立した下部組織をもっています。広島県にあるのが当会です。当会は1971（昭和46）年にわずか22名の任意団体としてスタートしましたが、現在は公益社団法人として活動しています。本年1月末現在、県下で約2,000名の理学療法士が当会に所属しています。

私たちの活動は、大きく二つに分けられます。ひとつは、会員の知識・技術を向上させることによる県民の皆さまへの医療・介護・福祉への間接的な貢献活動です。そのために、新人教育や生涯教育に関わる各種の研修会を頻繁に開催しています（写真1）。もうひとつは、さまざまな行事を通して、県民の皆さまの保健に関わる直接的な貢献活動です。具体的には市民公開講座を開催したり、各種の健康イベントや医療サポートに参



(写真1) 会員の生涯教育のための研修会

加したりしています（写真2）。当会の組織とその活動を表にまとめましたのでご参照ください。

このたび創刊しました本誌『REGAC（リーガック）』は、理学療法士の仕事と当会の活動を県民の皆さまに広く知っていただくための広報誌です。今後年1回のペースで発行し、理学療法やリハビリテーションについての情報発信、また当会の活動についての紹介を積極的に行っていきます。つきましては、今後とも当会へのご理解とご協力をよろしく願っています。

(表) 当会の組織とその活動内容

| 組織名 | 活動内容 |
|------|--|
| 教育局 | 会員の新人教育と生涯教育に関する研修会の開催、および会員のそれらの修了に関わる管理 |
| 学術局 | 学術研修会と広島県理学療法士学会の開催、機関誌『理学療法の臨床と研究』の発行、会員への研究助成の実施 |
| 社会局 | 市民公開講座や理学療法週間事業など各種公益事業の開催、社会福祉に関する研修会の開催 |
| 広報局 | ホームページの管理、会員向けニュースの発行、広報誌『REGAC（リーガック）』の発行 |
| 職能局 | 理学療法やリハビリテーションに関する資源調査、医療保険・介護保険に関する情報収集と研修会の開催 |
| 支部局 | 県下11支部（広島中・東・西・南・北、廿日市、呉、東広島、尾三、福山、備北）の活動支援および総括 |
| 事務局 | 各局運営のための総務・財務、会員への福利厚生事業の実施 |
| 委員会等 | 倫理委員会、学会評議員会、表彰委員会、選挙管理委員会、日本理学療法士協会代議員など |

創立40周年・公益社団法人

設立記念事業

1971(昭和46)年3月に広島県理学療法士会(以下、当会)は任意団体として設立し、1993(平成5)年8月には社団法人の認可を受けることができました。そして、2011(平成23)年3月で創立40周年を迎えました。

これと同時に新公益法人制度に基づき、同年4月に公益社団法人の認可を受けることができ、これまで以上に理学療法士の人格、倫理および学術技能を研鑽し、広島県内における理学療法の普及向上を図るとともに、広島県民の医療・保健・福祉の増進に寄与するために様々な事業を行っています。

このように、昨年は当会において記念すべき年となりましたので、「創立40周年・公益社団法人設立記念事業」として、広島国際会議場(8月20日)に於いて市民公開講座と記念式典を挙行いたしました。まず市民公開講座では、当会の賛助会員でもある豊田 章宏 医師(中国労災病院リハビリテーション科部長)により「健康で長生きするためにーリハビリを知らんにゃあいけんじゃろう!ー」というタイトルでご講演をしていただきました。事前受付の時点で入場者数を制限す



創立40周年・公益社団法人設立記念事業、記念式典にて

るほどの多数の参加者に、高齢化社会に向けたリハビリ医療の現状と疾病の必要性について、ユーモアを交えながら分かりやすくお話していただきました。次に記念式典では、衆議院議員・岸田 文雄 様、参議院議員・柳田 稔 様をはじめ、行政機関および県下の医療団体より多くの来賓の皆さまにご臨席を賜りました。さらに、当会から3名の会員が長年、県民に対する功績として県知事表彰を受けることができたことは、受賞者のみならず、当会にとっても大変な名誉となりました。

第16回広島県理学療法士学会

広島県理学療法士会では毎年12月第1週の週末に、「広島県理学療法士学会」を行っています。これは当会が学術研鑽とともに新人の会員の発表の場として、広島県内の11支部が持ち回りで担当して行っています。昨年末の平成23年12月3日(土)、4日(日)には、広島市南区にある広島市南区民文化センターで広島南支部担当による16回目の学会を開催しました。両日合わせて約550名の広島県内の理学療法士が参加しました。

第16回学会は「10年後の理学療法を考える～臨床・教育・研究 3つの視点から～」というテーマで行いました。理学療法を行う場面は、疾病を負ってからの時期、疾病の種類によって多岐にわたっています。それぞれの場で個々の理学療法士が最高の臨床技能を担保していくためには教育と研究の視点が不可欠であり、10年後の理学療法をどのようにしていくのかということについて会員と話し合いました。55題の演題発表に加えて特別講演、シンポジウムを行うとともに、



ポスター会場で発表、討論している風景

一般市民の皆さまを対象として「心と体に優しい介助方法～10年後あなたは腰痛に苦しんでいませんか?～」という市民公開講座を開催しました。講座では人の体の動きを理解し、介護用品の特徴を理解していくことで、介護する人、受ける人にも優しい介護方法とはどのようなものかということについて市民の皆さまに聞いていただきました。次回の第17回学会は東広島支部で準備を進めています。

2012は 障害者スポーツが 熱くなる!?



インタビュー



広島市障害者スポーツ協会

山下 慎氏

2011年に障害者スポーツ基本法が制定されました。2012年はロンドンパラリンピックイヤーです。今後、障害者を取りまくスポーツの環境は激変していくと予想されます。

そこで、今回は、まずは広島市障害者スポーツ協会事務局員である広島市中心障害者福祉センターの山下 慎氏にお話を聞きました。

Q 障害者スポーツに関わるようになったきっかけを教えてくださいませんか？

A これまで中高サッカー、大学ホッケーを専門にやっていました。

中京大学在学中に、身体障害者の水泳、車いすバスケットボール、障害者卓球と様々な障害者スポーツを見る機会がありました。同級生が広島市心身障害者福祉センターに勤務していたことから求人があることを知り、スポーツの経験を活かせる職場を探していたので入職しました。

指導者として勤務して、はじめて本格的に心身障害者のスポーツの世界を知りました。それまでは指導者としてのアスリートとの関わりはなかったものですから。

Q 健全人のスポーツと障害者のスポーツの違いはありますか？

A 発達障害・知的障害を有する方に関しては関わりに配慮すること

もありますが、その他、障害のある方がスポーツを行っているということ以外は特に違いはないと思います。というのも、ルール（テニスであれば2バウンド制など）や環境（車いすを用いる音のなるボールを使うなど）を障害に合わせ工夫しているだけです。

Q 我々理学療法士に対して、選手や各団体から具体的なニーズはあるでしょうか？

A 心身の障害により、場合によっては自己メンテナンスができないことがあります。

その度に病院等でメンテナンスすればよいのでは、ということもありますが、時間的制約があったり（個別1単位20分など）、受診に介助が必要だったり、障害者への理解が低いところもあり、相談する所がなかったり…ということが多々あります。



チェアスキー

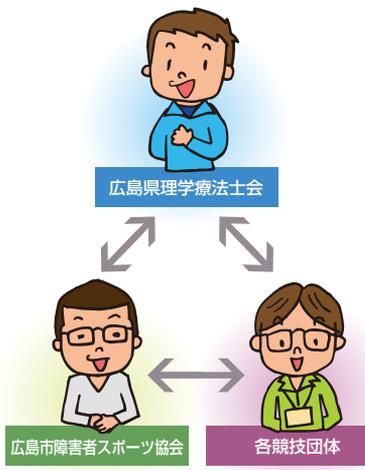


車いすテニス

しかし、逆に大会中など、スポットで厚くコンディショニングを行うと、普段のメンテナンス不足のギャップから身

体が動きすぎる感覚があったり、違和感があったり、パフォーマンスに悪影響があるとの話も聞きます。継続持続したサービスの提供を求めているのではないのでしょうか。また、パフォーマンスをあげるための関わり、助言がほしいという声も聞きます。選手それぞれのスポーツへのスタンス（勝ちたいという気持ち）に差はありますが、競技志向の選手で、パフォーマンスをあげたいと思っています。人は「情報」を求めているようです。理学療法士の立場からぜひアドバイスしてあげてほしいと思います。

これまでなかった連携図のような関わりができればいいのではないのでしょうか。その窓口として障害者支援班のような部署があればいいのではないかと思います。



以上のように、障害者スポーツ選手に関わり、身体ケア・コンディショニング、競技力の向上の一躍を担うことに関して、少なからず期待されていることが分かりました。今後の具体的な活動につなげ、縁の下から広島の障害者スポーツをサポートしていきたいと思っています。

各地での活動



相談コーナー（備北会場）

公益社団法人広島県理学療法士会では、平成15年度から公益活動に積極的に取り組んでいます。広島県の皆さまに理学療法士という仕事を知っていただき、利用していただくために、いろいろな場所で市民公開講座や、イベントを行ってきました。当初は広島市内で行っていた活動も、現在では11か所ある支部を中心に、さまざまな場所で、それぞれの支部が工夫を凝

各地^での



取^り組^み



ゴムチューブを使っでの体操（呉会場）

らして内容を吟味しています。今年度は、広島市東部、広島市北部、福山市、呉市、備北地区で講演や相談コーナー、体力テスト、ゴムチューブによる体操の体験などを実施しました。一般の皆さまの健康に対する興味、理学療法士に対する期待な

ど、直接お話をすることで実感できることが多くあります。そのような気づきを積み重ねながら、私たちはこれからも皆さまにとって理学療法が親しみのあるものになればと考えています。

高等学校野球大会 メディカルサポート

公益社団法人広島県理学療法士会では、スポーツ大会での選手のコンディショニングのサポートをボランティアで行っています。広島で行われたアジア大会の時期から事業を始め、平成15年からは車いすテニスの国際大会であるピースカップにも関わらせていただいています。

そして、今年度は当会では初めて広島県高等学校野球連盟からメディカルサポートの依頼を受け、第117回秋季中国地区高等学校野球大会に11名の理学療法士がスタッフとして参加しました。初の試みということもありスタッフ一同が緊張の面持ちではありましたが、繰り広げられる熱戦と、勝てば笑顔、負ければ涙の高校球児たちの姿に感動し、大切な試合をサ



福山市民球場バックネット裏で待機中

ポートできることにとても喜びを感じました。試合後にはクールダウンとしてアイシングやマッサージ、ストレッチなどを中心に、高校球児たちと会話をしながら和気あいあいとした雰囲気でのコンディショニングサポートとなりました。今後も、球児たちがよりよいコンディションでプレイできるよう、しっかりとサポートしていきたいと思っています。

理学療法士の の仕事

急性期では

県立広島病院 佐々木 寛美

急性期病院は、病気をしたり、ケガをしたりしてすぐの、より緊急性の高い患者さんの治療にあたる病院です。そのため、全身の状態がある程度落ち着くまでの入院となり、完全に元の身体の状態に戻らないまま退院（転院）となってしまうことが多い状況です。

そういった急性期病院の現状のなかでも、できるだけ患者さんが早く元気になって退院できるように、体を動かすことをお手伝いするのが理学療法士です。急性期病院での理学療法は、体を動かさないことによって身体の機能が低下してしまうことを予防したり、座ったり、立ったり、歩いたり等の動作や活動が早く行えるように、できる限り早い時期から開始します。点滴や人工呼吸器などをつけたままでも、全身の状態を見ながら行うため、最近は病室にお伺いすることが多くなっています。

総合病院である当院では、整形疾患や脳血管疾患だけでなく、内科や外科手術後、呼吸器・心疾患等さまざま



な患者さんの理学療法を行っています。さらに、赤ちゃんのリハビリや緩和ケアでのリハビリ等、幅広く関わっています。

しかし、急性期病院である当院でも平均在院日数は約2週間程度と短く、短期間で必要かつ的確な理学療法を考え行っていく必要があると同時に、次の治療段階（回復期や地域）にスムーズにつなげていくことも重要な役割です。患者さんは入院したことによる不安に加え、早い時期で退院となることへの不安や混乱もあり、それらを少しでも和らげられるよう、身体的にはもちろんのこと、心のサポートもできるように取り組んでいます。

回復期では

広島市総合リハビリテーションセンター 上田 千絵

脳卒中などの病気後や骨折などの患者さんが、急性期病院での治療が終わった後、後遺症が残ったり、元の生活にすぐ戻るのが難しいという場合に、回復期病棟に数ヶ月入院することになります。

回復期病棟では、患者さんに集中的なリハビリを行うために、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医師・看護師・ソーシャルワーカーなど様々な専門知識を持ったスタッフがチームを組んでいます。そして、患者さんに合わせたリハビリを行いつつ、実際の入院生活の場面でも、起きる・食べる・歩く・トイレに行く・風呂へ入る、などの日常生活動作へ積極的な働きかけをし、家庭復帰を支援します。

その中でも理学療法士は、起き上がる・立ち上がる・歩く、などの基本的な動作を、単に動けるということだけでなく、日常生活の回復のために、より楽な効率の良い動きに導けるようリハビリを行っています。また、杖や



車いすなど患者さんに合わせた道具の提案、家屋改修のアドバイスなど、退院までに必要な準備を患者さんやご家族と共に行っています。

回復期病棟は病院の中に一つの病棟として開設している所や、介護保険施設などが併設されている所などがあります。広島市総合リハビリテーションセンターは回復期病棟に加えて自立訓練施設が併設されており、回復期病棟を退院後、職場復帰や自立生活に不安がある場合、さらなる能力向上を目的に、入所や通所にてリハビリを行っています。

生活支援期では

広島グリーンヒル病院 兼
訪問看護ステーションハローナース五日市 森田 秀紀

当院は県道41号線を広島市から湯来方面に向かう途中（広島市佐伯区五日市町下河内）にあります。

当院には人工呼吸器を着けておられる方、胃に開けた穴から栄養補給されている方、認知症の方など様々な病気や外傷を患い長期間の医療・介護を必要とする方々が入院されています。関連施設には、老人保健施設五日市幸楽苑、五日市幸楽苑通所リハビリテーション、訪問看護ステーションハローナース五日市などがあり、各々で理学療法士が働いています。

当院の理学療法士は主に①身体各部の関節運動や筋力を強くする運動を行う、②生活場面における安全な動作を練習する、③手すりや杖、車いすなどの福祉用具や生活環境を整備し、動作や介助方法を指導・検討する、などの対応をしています。

日常生活では食事・排泄・入浴・着替えなど様々な活



動をするため、病院・施設・自宅の生活環境を整え、ご家族や職員の援助を受けながら少しでも自立して毎日の生活を送ること自体が身体・精神機能を維持・向上することにつながります。また在宅生活では、通所・訪問リハビリテーションや各種の医療・介護サービスを利用することで、“その方らしい生活”を続けていくことが大切です。

なお、当院では回復期リハビリテーション病床の開設を計画中で、入院～退院後の在宅生活におけるまで継続したリハビリテーションを提供できるよう取り組んでいます。

スポーツ外来では

和光整形外科クリニック 沖正 祐亮

当院は外来の整形外科診療およびリハビリテーションを主に行っております。整形外科領域の診療ですから、対象となるのは膝・腰・肩などに痛みを抱えるご高齢の方や、仕事や日常生活に支障をきたしている壮年層からお子さままで、幅広い年代の方にご利用いただいています。

また、日常生活よりもさらに高いレベルでの身体能力の発揮を要求されるスポーツ選手も来られます。スポーツ選手は、目指す最終目標が違うとはいえ、一般の方と同じ様に「体に不調を抱えている」という点では共通しています。当院には年代・競技レベルとも多種多様なスポーツ選手が来院されます。

スポーツ・一般を問わず理学療法士が行う仕事は、問診から始まり理学療法評価（身体の状態チェック）を行い、問題点を見つけ、適切な治療方法（主に運動療法、徒手療法、物理療法）を選択・実施し患者さまの目標達



成を効率よく導くことです。

この流れで一貫して言えることは、私たちが一方的に治療を行うのではないということです。重要なのは、私たちが病状を説明する中で患者さま自身も問題に気づき、解決へ向けて意識付けられることです。問題を共有し治療計画に参画することで、本来の自立につながると考えています。

その他の特徴としては、当院では近隣の高校へのトレーナー派遣を行っています。現場に赴き、トレーニングの管理や、身体のケアなどを行い、地域に密着したスポーツ選手のサポートに取り組んでいます。

ホームページをご活用ください。

http://hpta.or.jp/

Click 1

理学療法士になりたい方

理学療法士になるためには、国家資格を取得する必要があります。理学療法士の国家試験を受験するためには、養成校で3年以上学び、必要な知識と技術を身につける必要があります。養成校には大学、短期大学、専門学校（3年制・4年制）等があり、県内には4年制大学が3校、4年制学校が2校あります。

資格取得後、より専門的な知識を身に付ける場合、研究職をめざす場合などは大学院もあります。

Click 2

理学療法を受けたい方

理学療法は医療行為に位置付けられており、医師の指示に基づいて行われます。理学療法の多くは、病院、クリニック、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどの介護保険関連施設で行われています。ホームページの**資源情報**には、広島県理学療法士会の会員所属施設を対象に、施設の概要、対象疾患などを掲載していますので、ご活用ください。



広島県理学療法士会

検索



公益社団法人 広島県理学療法士会

お問い合わせ

TEL:082-568-5610

FAX:082-568-5614

e-mail: hpta-office@hpta.or.jp

〒732-0052 広島県広島市東区光町1丁目4-27-501

http://hpta.or.jp/

REGAC 2012年2月 創刊号 (公社) 広島県理学療法士会 広報誌

創刊号となる本号では、当会と理学療法士の大まかな紹介をさせていただきました。次号以降も読みやすく充実した紙面になるよう企画しますので、その際はぜひ手にとつてご覧いただければ幸いです。

編集後記

広島県理学療法士会が平成23年度に公益社団法人に移行したことを受け、広く県民の皆さまに理学療法士について知っていただき、また、有益な情報を提供できるように、広報誌を発行する運びとなりました。リハビリという言葉は10年前と比べても随分一般的に知られるようになり、市民権を得た言葉になりましたが、リハビリテーション医療の一翼を担う理学療法(士)という言葉は、まだまだ普及していない印象です。当会ではいつそう公益活動を推進し、理学療法士の仕事を知っていただくとともに、県民の皆さまの健康で充実した生活を支援できるように活動したいと思っております。